

県北・県央地域で採集したヤガ類3種の薬剤感受性

農業総合センター山間地帯特産指導所

露地栽培が中心である奥久慈なすの産地（常陸太田市、ひたちなか市、常陸大宮市、那珂市、大子町）において、オオタバコガ等のヤガ類は栽培期間全体を通して発生する防除の難しい害虫であり、防除薬剤に対する抵抗性の発達も危惧されています。

そこで、県北・県央地域で発生するヤガ類の発消長及び幼虫に対する主な薬剤の殺虫効果を明らかにし、なす生産者が活用できる技術情報として取りまとめました。

県北地域におけるヤガ類の発消長

常陸大宮市、大子町でヤガ類（ハスモンヨトウ、オオタバコガ、タバコガ）成虫の飛来数を調査した結果、露地ナスの栽培期間全体を通じて飛来が確認され、ハスモンヨトウは9月に、オオタバコガ及びタバコガは8月上旬、9月上旬において、それぞれ発生のピークとなりました（図1）。

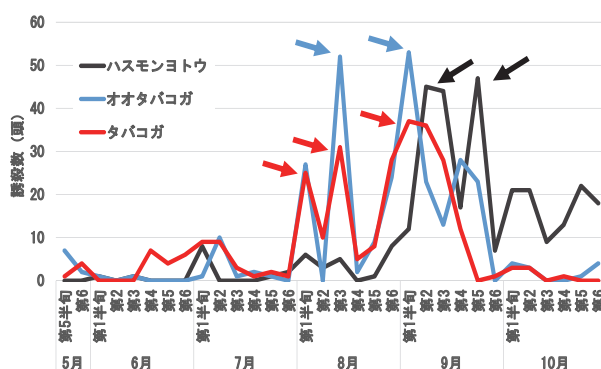


図1 ヤガ類の発消長の推移 (5～10月)

表1 ヤガ類幼虫に対する各種薬剤の殺虫効果 (薬剤処理7日後の補正死虫率(※1))

供試薬剤 (有効成分)	IRAC (※2)	ハスモンヨトウ	オオタバコガ	タバコガ
コテツフロアブル (クロルフェナビル)	13	100	93.3	100
プレオフロアブル (ピリダリル)	UN	100	100	100
アクセルフロアブル (メタフルミゾン)	22B	96.7	100	100
アニキ乳剤 (レビメクテン)	6	100	100	100

※1：補正死虫率が90%以上の薬剤を、殺虫効果が高いと判定しています。

※2：IRACコードとは、殺虫・殺ダニ剤をその作用機構に基づいて分類したものです。

各種薬剤の殺虫効果

ハスモンヨトウ、オオタバコガ、タバコガの幼虫に対し、10種の薬剤を供試して殺虫効果を調査した結果、コテツフロアブル、プレオフロアブル、アクセルフロアブル、アニキ乳剤の4剤は安定して効果が高いことを明らかにしました（表1）。

本成果を活用することによって、薬剤を適切に選定して生産コストを削減し、効率的にヤガ類の防除を行うことにより、なす生産者の所得向上につながる事が期待されます。

本成果の留意点

本成果の活用にあたっては以下の点に留意してください。

- ① 薬剤感受性検定に供試したヤガ類は、高萩市、常陸大宮市、那珂市で採集した個体群です（図2）。
- ② 薬剤感受性検定に用いた薬剤は、令和5年4月5日現在、「なす」あるいは「野菜類」のハスモンヨトウ及びオオタバコガに対して登録のある薬剤です。
- ③ 薬剤散布の際は、抵抗の発達を防ぐため、IRACコードの異なる薬剤をローテーションで散布して下さい。

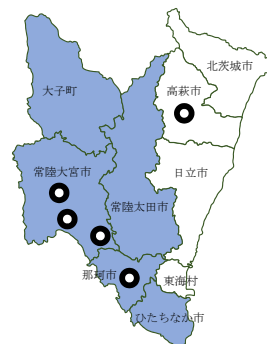


図2 奥久慈なす栽培地域 (地図上の青い市町) ●：ヤガ類採集地



写真
ハスモンヨトウ (上)
オオタバコガ (下)